

信州民報

昭和36年5月
第3786号

長和町

人気の「山村再生プロジェクト」

東京農大学生50人が田植え実習



尾美さんから長和町について聞く学生ら



初めて田植えをする学生も

長和町と東京農大が連携し、今年度からスタートした「山村再生プロジェクト」

「同プロジェクトには地元の農家が指導者になるなど町民の多くが関わり、学生と交流ができる」とし、「学生たちの新しい、若い発想で町に提案もある」と、連携プロジェクトを歓迎。同大の立岩寿一教授は「この実習の人氣は高く、募集がすぐいっぱいになる」とし、「地元の人たちとふれあい、授業と実習が補完し合える関係にあるので有り難い」と話した。

学生らは23日まで滞在。遊休荒廃農地の再生や獣害柵の設置、「東京農大の森」の遊歩道整備、夏野菜の作付けなどの農業実習の傍ら、山の子学園で森林資源を活用したクラフト作りなど町民らと交流した。実習は毎月1回行われる。

長野朝鮮初中級学校で「支援チャリティバザー」収益金の一部は栄村へ。長野朝鮮初中級学校支援チャリティバザーが22日、上田市国分の焼肉丁寿屋前で開催された。東信地域の在日朝鮮・韓国人らでつくる実行委員会(金国経委員長)の主催。

上田から毎日、松本の長野朝鮮初中級学校へ通

鎮魂と復興を祈るコンサート
上田新参町教会に120人集う
メサイアを歌う会
メサイアを歌う会(今井洋幸代表・35人)は21日、上田市の大手の上田新参町教会で「鎮魂と復興を祈るコンサート」を開催。

約120人が参加した。今井代表は「長い避難生活や瓦礫の山を思うと涙が出る。心に届くように復興への意味を込めて歌う」と話す。

第一部は、命の讃歌の混声合唱組曲「水のいのち」。「曲中の海という歌詞から津波と重なり苦

しい気持ちもあるが、水がないと生きてはいけない。慰めとエールの思いで歌う」と言い、歌った。第二部は平和の祈りとして、聖書を学びながら一年半に渡り練習したヘンデルのオラトリオ「メサイア」を高らかに歌い上げた。

ウグイの簡易フ化

上田の水産試験所で成功

千曲川のウグイ(通称ハヤ)は年々減少の一途をたどり、ことに近年は加速度的に減少してきているので、上小漁業組合ではウグイが絶えるのを防止するため、数年前からツケバ場を採卵したものを上田市小牧の水産庁淡水区研究所の養魚池を利用してフ化放流して来ているが、今年は四万尾放流を目標にツケバ業者の協力と事業を進めている。指導に当たっている水産研究所では、養魚池の施設がなくても簡易にできる新

▼待望の電灯つくく真田町鳴尾開拓地 陸の孤島といわれた真田町の鳴尾開拓地にも、いよいよ年内に電灯がつくことになった。上小地方事務所関係者は、辺境地振興の一環として昨年来無電灯部落の解消に力を注いできたが、当時、上小に百四戸の無電灯家屋があり、うち四十七戸が開拓農家であった。そこで優先的に電気を導入してやるということ

▼学校へ教材用電話機 田局関係は八校 信越電気通信局では、毎年管内の小中学校へ各電報電話局を通じて教材用の磁石式電話機を贈っているが、今年は全部で八十の小中学校に二台ずつ贈られることに決まり上田局には八校の割当が来たので、いま贈呈先を選んでいる。この電話機は「デロピル」と呼ばれる壁掛け式の磁石式電話機

▼沢田区の消防自動車庫建て替え 「丸子」丸子町沢田区にある消防ポンプ自動車の車庫

募 集
◆「生活に生かすデザインセンスアップ講座」

込み合うバザー

